



いみちみんな
いんがな
なあって

毎年4月2日は、国連の定めた「世界自閉症啓発デー」

4月2日～8日は発達障がい啓発週間
福岡市ではたくさんのイベントを開催します。

4/1 (金) 街頭啓発

4/2 (土) 映画祭・講演会 **申し込み不要・入場無料**

12:30～16:45

場所: 中央市民センター

講演: 神山忠先生(岐阜市立岐阜特別支援学校教諭)

LD(学習障がい、読みの困難さ)当事者として講演。

映画: 「ぼくはうみがみたくなりました」上映

4/25(月)～5/1(日) アート展

展示場所

- ・アクロス福岡 1階 コミュニケーションエリア
(福岡市中央区天神1丁目1番1号)
- ・星の広場 (福岡市庁舎地下通路)

「世界自閉症啓発デー」に関する情報サイト

<http://www.worldautismawarenessday.jp/>



World Autism
Awareness Day

お問い合わせ先

★福岡市こども未来局こども部こども発達支援課 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL: (092)711-4178 FAX: (092)733-5534

★福岡市発達障がい者支援センター「ゆうゆうセンター」福岡市中央区地行浜2丁目1番6号福岡市発達教育センター2F

TEL: (092)845-0040 FAX: (092)845-0045

<http://www.fc-jigyoudan.org/youyou/index.html> E-mail: youyou@fc-jigyoudan.org

主催: 福岡市 福岡市社会福祉事業団(福岡市発達障がい者支援センター) 福岡市自閉症協会 福岡LD及び周辺児・者親の会「たけのこ」
福岡市成人期高機能自閉症・アスペルガー症候群等親の会「あすなる」

後援: 福岡市教育委員会 福岡市医師会 福岡市PTA協議会 知的障がい特別支援学校保護者会連合会

講演会

12:45～ (120 分)

神山忠先生講演会

「読みの障がいの当事者からみた学校・家庭そして社会参加」

講師: 神山忠先生 岐阜市立岐阜特別支援学校教諭

学齢期、必死に読んでも教科書の文章が頭に入ってくない、指でなぞっても読み進められない等の困難さがありましたが、そのことを教師や周囲の人に理解してもらうことができず、様々な困難の中で学校生活を過ごされました。

その後、自衛隊入隊。自衛隊に勤務しながら教員免許取得のために夜間の短大に通われ、「勉強が苦手な子どもの気持ちわかる教師になり、つらい思いをさせない教育を」という強い思いが実り、平成元年教員採用試験に合格されました。

自らのディスレクシアを公表し、読みの困難さを当事者の立場からわかりやすくお話しされることに定評があります。今回福岡でも保護者、学校の先生、支援者、教員や福祉を目指す学生や発達障がいに興味を持つ市民の方にとって、とても興味深い貴重なお話が聞けることと期待しています。

映画祭

15:00～ (103 分)

ぼくはうみがみたくなりました

「ドライブ行かない？海とか・・・」

はじめて出逢ったとき、わたしは彼の障がいのこと、
ぜんぜん知りませんでした。

自閉症の青年が教えてくれたこと・・・心がすこし優しくなれる感動のストーリー。

自分を見失いかけていた看護学生の明日美（大塚ちひろ）は、ある日のこと、愛車の黄色いステップワゴンを見つめている青年・淳一（伊藤祐貴）に声をかける・・・
偶然からはじまったドライブは、旅先で出会う人々を巻き込みながら、たくさんの驚きとささやかな幸福を明日美にもたらしことに――。

「自閉症」という名前だけが一人歩きし始めている昨今、実際の症状や接し方等、ほとんど知られていない障がいに焦点を当て、ひとりの自閉症の青年を取り巻く人々の人生や心の成長を、時にユーモラスに、時に厳しく、そして温かく描き出した秀作。

主人公・明日美に、映画『いま、会いにゆきます』での瑞々しい存在感が話題を呼んだ、大塚ちひろ（映画初主演！）。新人・伊藤祐貴は、500人以上のオーディションから選ばれ、自閉症の青年という難役を見事に演じ切った。その青年の母親役として実力派女優・石井めぐみ、物語のキーパーソンとなる老夫婦役を名優・秋野太作、大森暁美が演じ、ゆったりとした空気感を映画に吹き込む。そして、障害者の“きょうだい”としての高校生役を演じた若手・小林裕吉 & 松嶋初音の等身大の演技にも注目。



原作の『ぼくはうみがみたくなりました』は、自閉症児・大輝（ヒロキ）君の父親である脚本家・山下久仁明氏が「一人でも多くの人たちに自閉症のことを知って欲しい」という想いから2002年に書き下ろした小説。映画化を企画し、インターネットで制作費のカンパを呼びかけた矢先の2006年3月、山下氏は中学を卒業したばかりの大輝君を事故で失う。その3年後、全国の賛同者1,000人以上からの寄付金をもとに、2009年の春、ついに映画が完成する。全国での上映を目指し、プロジェクトは現在も進行中。

<http://homepage2.nifty.com/bokuumi/>